

世田谷村日記

石山修武

る。グルジアのナターシャ夫妻、ニューヨークのフレッドともあ  
いさつ。十七時世田谷村に戻り、すぐ眠ってしまふ。

十二月十六日

十二時学科将来会議。十四時設計製図中間講評会。十七時半迄。  
十八時半渡辺と磯崎アトリエへ。十九時半磯崎さん宮脇愛子さん  
他と神楽坂寿司幸。二十一時過了。二十二時半世田谷村に戻る。  
宮脇愛子さんに絵本の件で手紙を書く約束をする。

十二月十七日

朝、馬場昭道より電話。十三時半新宿で室内長井さんにマテリ  
アル渡し。十五時研究室。修士設計、論文ゼミ、他。十八時半修  
了。チリからの留学生アベルと新宿で夕食。アベルは三〇才。す  
でにチリで住宅の実作があり将来への野心も明確にある。要する  
に若いラテンアメリカの建築家である。これ位の若い奴を教える  
のは面白い。

アベルは母親と十五才までキューバで暮らしていた。エルネス  
ト・チェ・ゲバラが去ったキューバである。キューバの記憶は今  
も強く心に残っていると言う。一度、キューバには僕も行ってみ  
たいと考えている。リオデジャネイロのガブリエルにも又会って  
みたい。皆、エルネストを心の奥底でいまだに愛している若者達  
だ。イデオロギーではなく、精神として。二十一時半、世田谷村  
に戻る。

十二月十八日 日曜日

十時発。丸の内で今日は会があり、久し振りに家族親戚が集ま